

## 第3章 施設について

### 3-1 デザインコンセプト

公園センター地区の整備にあたっては、これまで培ってきた歴史を踏まえながら、広瀬川の流れ、深い緑、変化に富んだ地形などの青葉山の豊かな自然、現代のまちの風景と調和し、様々な人が集まる市民が誇れる場所となることを目指し、デザインコンセプトを以下のとおり定める。

#### ◇デザインコンセプト

～青葉山の自然と仙台のまちにとけこむ、歴史・文化漂うたたずまい～  
目の前に広がる青葉山の豊かな自然、見下ろせば広瀬川の清らかな流れ、  
この地で培われてきた歴史・文化の薫り漂う風景を  
杜の都の誇りとして後世につなぐ

### 3-2 デザインの基本的な考え方

#### 1) 空間デザインの考え方

公園センターの情報発信、飲食・休憩、体験・交流の機能が十分に発揮できることを前提とし、上記コンセプトをもとに、培われてきた歴史・文化を感じさせ、人々が寄り添いくつろぎとにぎわいがある空間づくりを行う。更に、メインアプローチである大橋からの連続した風景に溶け込むことや広瀬川とのつながりを意識するという視点を加え、公園センター地区の空間デザインの考え方を以下のとおりとする。

培われてきた歴史・文化を感じさせる空間  
まち、広瀬川、青葉山の連続した風景に溶け込む空間  
人々が寄り添い、くつろぎとにぎわいのある空間  
広瀬川とつながる広々としてゆとりのある空間  
公園センターの機能が十分に発揮できる空間

#### 2) 施設デザインの考え方

公園センターに設置する各施設については、デザインコンセプト、空間デザインの考え方に沿ったデザインとする。更に、青葉山公園のエントランスとして印象づけ、「これぞ仙台」と感じられる後世につなげるデザインとする。また、国指定史跡仙台城跡の隣接地にふさわしいことも求められる。

青葉山のエントランスとして印象づけるデザイン  
“仙台らしさ”を後世につなげるデザイン  
草花や植栽を通し“仙台の四季”を感じるデザイン  
大橋から見える、遠景、近景、建物の質感などランドスケープを意識したデザイン  
埋蔵文化財に配慮した史跡の隣接地にふさわしいデザイン

### 3-3 ゾーニング

公園センター地区のゾーニングの考え方を以下のとおりとする。

#### 【公園センター】

- ・市道青葉山線と市道追廻天主台線の交差点に近く、追廻地区の入口に配置する。

#### 【広場】

- ・様々な交通手段での来訪者を迎え入れる空間として、また、イベント開催場所としてのにぎわいが来訪者に伝わるよう、公園センターの北側の市道青葉山線との間に配置する。

#### 【テラス】

- ・公園センターのカフェと連続した空間となり、広瀬川への誘導ができるように配置する。

#### 【庭】

- ・公園センターを引き立て、車両乗降エリアとのバッファーとなるように配置する。

#### 【車両乗降エリア】

- ・長沼沿いの車道に隣接して配置する。

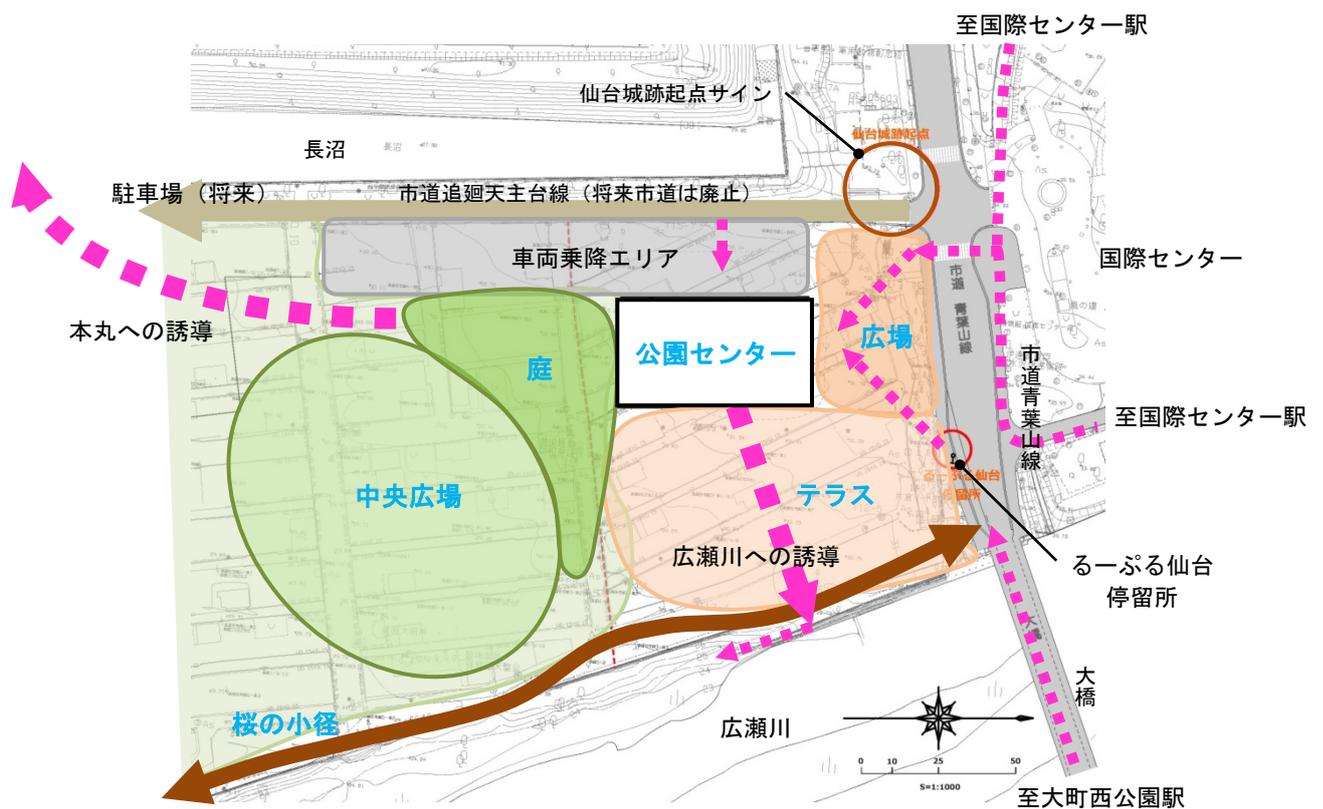


図 3-1 ゾーニング図

【参 考】

デザインの基本的な考え方（まとめ）



空間デザインの考え方

- ① 培われてきた歴史・文化を感じさせる空間

施設デザインの考え方

- ① 青葉山のエントランスとして印象づけるデザイン
- ② “仙台らしさ”を後世につなげるデザイン
- ③ 草花や植栽を通し“仙台の四季”を感じるデザイン
- ④ 大橋から見える遠景、近景、建物の質感などランドスケープを意識したデザイン
- ⑤ 埋蔵文化財に配慮した史跡の隣接地にふさわしいデザイン

空間デザインの考え方

- ⑤ 公園センターの機能が十分に発揮できる空間

空間デザインの考え方

- ② まち、広瀬川、青葉山の連続した風景に溶け込む空間

空間デザインの考え方

- ④ 広瀬川とつながる広々としたゆとりのある空間

空間デザインの考え方

- ③ 人々が寄り添いくつろぎとにぎわいのある空間

公園センター地区

3-4 公園センター

1) 配置イメージ

公園センターの建物規模は、平屋建て約 2,200~2,500 m<sup>2</sup>を想定している。公園センターの各機能の割合を、模式的に表した機能構成図を以下に示す(図3-2)。

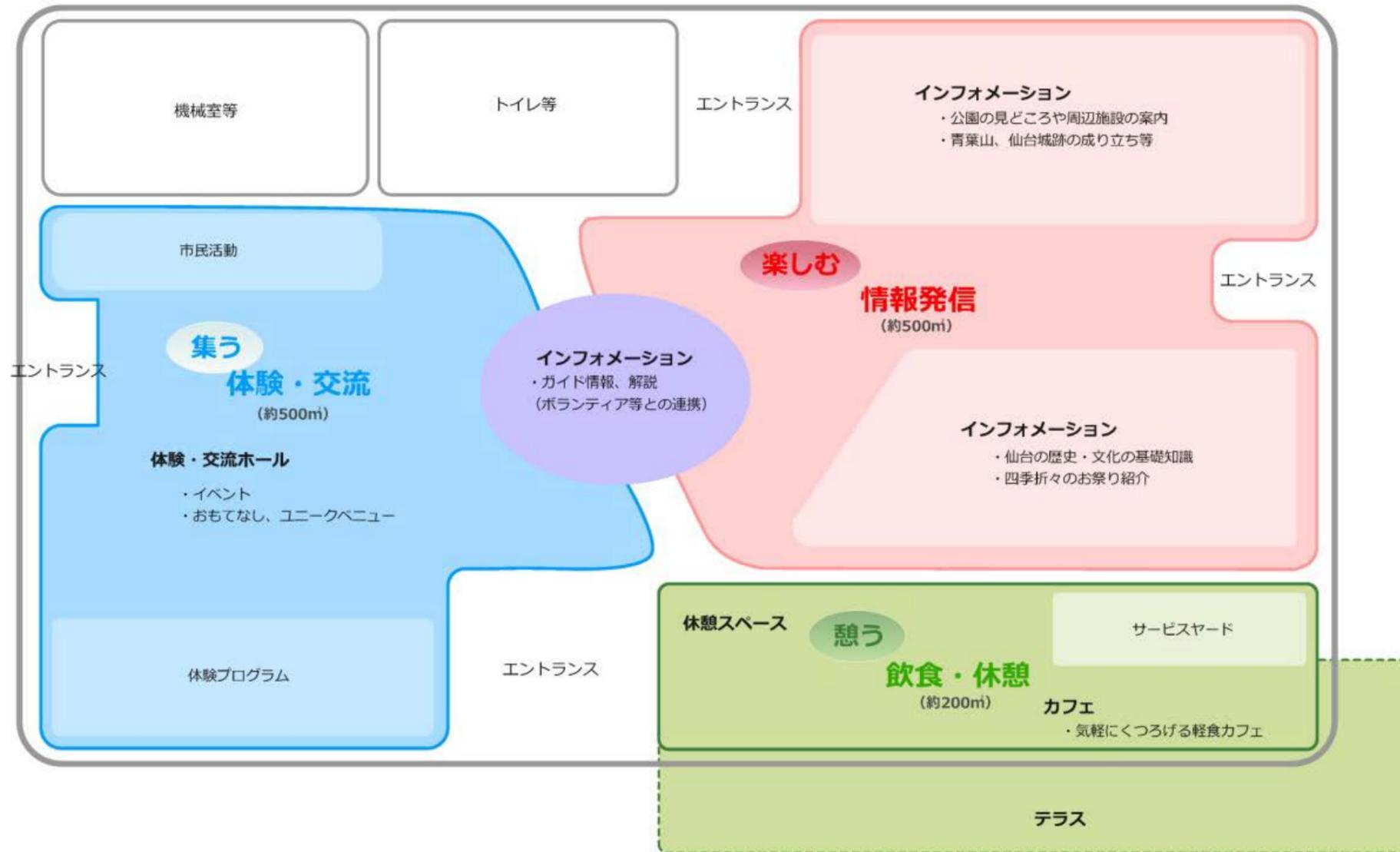


図 3-2 機能構成図(屋内)

表 3-1 公園センターの面積

機能		面積
憩う	飲食・休憩	カフェ・テラス・休憩スペース
		約200 m <sup>2</sup>
楽しむ	情報発信	インフォメーション
		公園の見どころ、周辺施設の案内
		青葉山、仙台城跡の成り立ち等
		ガイド情報、解説
		仙台の歴史、文化の基礎知識
	四季折々のお祭り紹介	
	約500 m <sup>2</sup>	
集う	体験・交流	体験交流ホール
		市民活動
		体験プログラム
	約500 m <sup>2</sup>	
共用	利用者サービス	トイレ、コインロッカー等
	管理	機械室、収納庫、管理室等
	共用	エントランス、通路
	約1000~1300 m <sup>2</sup>	
合計		約2200~2500 m <sup>2</sup>

## 2) 各施設の整備の考え方

第2章2-4「各機能のイメージ」から、公園センターの各施設の整備の考え方を以下のとおりとする。

### 【建物全般】

- ・屋内と屋外に一体感があるように見える工夫をする。
- ・仙台らしさを取り入れた独自の工夫をする。  
例) 仙台の伝統工芸を取り入れた内装など
- ・地元産木材の利用の促進（施設の木造・木質化）を図る。  
(仙台市公共建築物等における木材利用の促進に関する方針)
- ・ユニバーサルデザインに適合した整備を行う。

### 【インフォメーション（情報発信）】

- ・屋外からも認識しやすく、来訪者の目につきやすい場所に配置する。
- ・大型展示物の設置が可能な高さや広さを有し、搬入・搬出が可能な出入り口を設置する。
- ・全ての来訪者がわかりやすい場所に案内カウンターを設置する。

### 【カフェ等（飲食・休憩）】

- ・屋外テラスと連続する一体的なオープンカフェとなるように配置する。
- ・公園センターが閉館した後も営業ができるように、専用のエントランスやトイレを設置する。
- ・従業員用休憩所、備品庫などを設置する。
- ・広場のイベントでのケータリングに対応できるように、出入口の位置などを工夫する。

### 【体験・交流ホール（体験・交流）】

- ・仙台らしさ、日本らしさなどの特徴を持たせる。  
例) 畳などを使用した和風空間など
- ・各種公演が行えるように設えを工夫する。  
例) ステージ、舞台など
- ・休憩に利用できるスツールなどを設置する。
- ・災害時、緊急時の避難可能なスペースを確保する。
- ・体験プログラムなどの利用規模に応じた間仕切りを可能とする。
- ・青葉山公園での市民活動団体の活動準備スペースを確保する。  
例) 準備室、ロッカー、イベント開催時のバックヤードなど

### 【共用スペース】

- ・トイレ、授乳室、ロッカーなどを配置する。
- ・電気室、機械室、受水槽室は、維持管理がしやすい場所へ配置する。
- ・交流・体験ホールの備品（椅子、机など）や維持管理備品（除草機械、発電機などの災害対応用備品）を収納する倉庫を設置する。

### 3) 展示の考え方

第2章2-4「各機能のイメージ」1)「情報発信機能」に基く展示内容の例を以下のとおりとする。今後、展示内容及び手法については、展示設計において詳細に検討することとする。

#### (1) 展示内容

##### 【仙台・青葉山を知るきっかけとなる情報の提供】

###### ◇青葉山の全体像や見どころなど、実際に出かけて見に行くきっかけとなる

- ・青葉山及び仙台城跡の概要や、どこに行くとどのようなものが見られるのかがわかり、周辺施設にも誘導する。

(青葉山公園マップ、仙台城跡遺構マップ、周辺施設紹介、周辺施設イベントなど)

###### ◇青葉山の地形や仙台城の配置が理解できる

- ・地形等の自然的要素をどのように利用してきたかを理解でき、散策などの活動の幅が広がる。

(青葉山公園地形模型、仙台市の衛星写真など)

###### ◇気軽に仙台の歴史・文化を知ることができ、市民も仙台を再発見できる

- ・仙台を知るきっかけとなる歴史の概略や基礎知識を得ることで、仙台城跡及び市内各地の歴史解説が理解しやすくなる。市民も、仙台の来歴などを気軽に知ることができ、歴史ある場所に住むことの誇りにつながることが期待される。

(杜の都のいわれ、仙台の歴史など)

###### ◇追廻地区の歴史の変遷、片倉小十郎屋敷跡の情報を知ることができる

- ・計画地ならではの情報として、追廻地区の歴史や片倉小十郎屋敷があったという情報を発信する。

(追廻地区の変遷、片倉小十郎屋敷についての情報、遺構確認調査結果など)

###### ◇四季折々の仙台のお祭りを知ることができる

- ・訪れた時にタイムリーにその季節の雰囲気を感じられるように工夫しながら、仙台の様々なお祭りを紹介する。青葉まつりや七夕まつりの紹介には、山車や七夕飾りなどを展示する。

(仙台のお祭一覧、季節のお祭りのPRなど)

###### ◇「政宗が育んだ伊達な文化」などを知ることができる

(日本遺産 政宗が育んだ“伊達”な文化の紹介など)

##### 【総合案内】

###### ◇イベント、旬の情報を知ることができる

- ・青葉山周辺地区で開催される行事など、どこに行くとどのようなことができるかがわかり、波及効果が生まれることも期待される。

(本日の利用案内、イベント案内、季節の見どころ、おすすめ散策ルートなど)

###### ◇ガイドボランティアの情報を知ることができる

- ・ガイドを行う団体、コースや実施内容などの全容がわかり、来訪者が容易に選択できるようにする。

## (2) 展示の方法

- ・次の展開（体験など）にもつながるように展示のしかけを工夫する。
- ・公園センターでの案内だけではなく、専用のホームページ等を開設する。
- ・VR、アプリ、Wifi などの導入を検討する。
- ・訪日外国人が容易に理解できる仕組みとする。
- ・固定された展示だけではなく、臨機に更新が可能となる方法とする。

## 4) 構造の考え方

青葉山公園は、将来、仙台市における防災拠点として位置づけられることも考えられ、多くの人が利用する施設であることから、本建物の耐震性能としては、「仙台市有建築物が目標とすべき耐震安全性について（H11.11.15 都建営第 183 号）」によるところのⅡa 類相当として検討する。

また、各法規や条例に則り、風荷重・積雪荷重・地震力に対応出来る十分な強度を確保する。

### 【構造種別】

ホールなどの大空間を必要とするため、できる限り柱を少なくし、内部空間が有効活用できることとする。また、建物の荷重を軽減させ、地下遺構への影響を与えない構造とする。

### 【基礎の検討】

計画地は、地下に遺構が残っており、遺構を保護するための盛土を行い、建物の基礎を盛土の中に収めなければならない。

### 【環境への配慮】

構造体の耐久性を高め、建築の長寿命化を図り、環境への負荷を低減する。経済性を考慮した、建物の要求性能を満たす最適な設計を行う。また、新工法や新技術等経済的に有利な工法を採用する。

## 5) 配置の考え方

遺構確認調査の結果や歴史資料により、建物予定地内の北側には、片倉家屋敷の主要部分があったと考えられるため、建物の配置検討の際は、できるだけその部分を避け、必要最低限の規模とする。

## 6) 設備の考え方

電気・機械設備に関しては、将来を考慮し、信頼性の高い安全で効率的な、拡張性高い、機器等の更新が容易なものとする。

また、環境に配慮した設備、機器等の採用に努めるなど、ライフサイクルコストの低減を図る。給排水に関しては、災害時のライフラインの確保について検討する。

## 3-5 園路広場等

### 1) 配置イメージ

公園センター地区の面積は約 30,000 m<sup>2</sup>であり、ゾーニングの考え方に基づいた広場等の配置を次に示す (図 3-3)。



図 3-3 機能構成図 (屋外)

表 3-2 施設の規模

機能			施設	面積
楽しむ	憩う	集う	公園センター	2,200 m <sup>2</sup> ~2,500 m <sup>2</sup>
		集う	広場	4,200 m <sup>2</sup>
	憩う		テラス	5,800 m <sup>2</sup>
	憩う		庭	12,000 m <sup>2</sup>
	憩う	集う	中央広場	3,500 m <sup>2</sup>
	憩う		桜の小径	2,100 m <sup>2</sup>
			乗車場など	約30,000 m <sup>2</sup>

## 2) 施設整備の考え方

第2章2-4「各機能のイメージ」から、園路広場各施設の整備の考え方を以下のとおりとする。

### 【園路広場全般】

- ・遺構の保護に留意する
- ・広瀬川右岸の護岸石垣を園路広場の一部として補修する。
- ・仙台の四季を感じられるような花木や草花により修景する。
- ・ユニバーサルデザインに適合した整備を行う。

### 【テラス（飲食・休憩）】

- ・屋内のカフェから連続させ、一体感を持たせる。
- ・広瀬川を眺め、休憩できるデッキなどを整備する。

### 【庭（飲食・休憩）】

- ・野点などにも利用できる小広場や四阿を設置する。
- ・休憩用のベンチ、縁台などを設置する。
- ・公園センターの背景を形づくり、青葉山の風景と連続させる。
- ・仙台らしさ、日本らしさなど特徴のある庭を整備する。

例) 伊達家の家紋の意匠である竹を植栽樹種として活用、伊達家上屋敷遺構の石材利用、居久根・屋敷林を意識した植栽など

### 【桜の小径（飲食・休憩）】

- ・国際センター地区から連続した桜の小径を、広瀬川沿いに整備する。
- ・広瀬川を眺望しながら休憩できる小広場などを設置する。
- ・広瀬川の水辺に近づくことができる通路を整備する。

### 【広場（体験・交流）】

- ・市道青葉山線の歩道と広場を連続させ、一体感を持たせる。
- ・イベントの開催が可能な電源、排水設備、水道を設置する。
- ・ケータリングカー等の乗り入れが可能な平坦で段差のない広場とする。

### 【中央広場（体験・交流）】

- ・様々な利用やニーズにこたえられる広々とした芝生広場とする。
- ・緑陰や、視覚的、空間利用の手がかりとなるように適宜植栽を配置する。

### 3) その他

- ・公園センター地区の造成にあたっては、遺構確認調査によって明らかになった遺構を盛土により保護する。その際、盛土の軽量化の検討も必要である。
- ・テラス、広場でのイベントの開催や、夜間の利用にも配慮して、屋外電源やオイルトラップ等を設置する。
- ・その場の雰囲気に合わせて椅子とテーブルや、夜間利用にも対応した照明を設置する。
- ・庭や中央広場で適切な維持管理ができるように、散水栓を設置する。